

職員の皆さんへ

あっという間に夏が終わり、すでに9月がスタートしました。本日から9月定例市議会が始まります。

真夏の平戸観光の盛り上がりを期待していましたが、長引く前線の停滞により悪天候が続き局地的な集中豪雨などによる一部災害や農作業への弊害なども市内各地に見受けられました。また皆さん既にご承知のとおり広島市では甚大な土砂災害が発生し多くの人命が奪われ、未だなお行方不明者の確認が急がれるなど悲惨な状況が続いています。心よりお見舞い申し上げ、一刻も早い復旧をお祈りいたします。

このところ本市においても繰り返された豪雨や災害情報について市民の皆様にもご心配おかけしましたが、担当職員におかれてはその都度警戒体制の中に関係機関との連携や住民の皆様への情報提供などそれぞれのお立場で努力されました。大変お疲れ様でした。

さて本年予定している様々なイベントのうち目玉の一つであった「世界遺産登録推進コンサート」は、平戸市近郊はもとより全国各地から合わせて1500名を超えるお客様にお越し頂いて大盛況のうちに終了することができました。

世界的指揮者の西本智実さん率いるイルミネートフィイルハーモニーオーケストラによる荘厳な演奏と、全国から集まってこられた「平戸でオラショと第九を歌う会」の皆さんの華麗な大合唱は、古くから生月に伝わるカクレキリシタンの祈り「唄オラショ」と原曲「グレゴリオ聖歌」のコラボとして、「和と洋」「静と動」「陰と陽」「過去と未来」の対極する二つの価値を見事に融合した「世紀を超えた歴史ロマン」のステージそのものでありました。

さすがに超一流の指揮者が織りなす456年の時空を越えて蘇った祈りと感動の極致は、会場に集うすべての聴衆にとって一様に堪能し、心から酔いしれた歴史的奇跡の瞬間であったかと思えます

そして西本さんご自身からは「また生月に帰って来たいです」と嬉しいお言葉をお聞きすることができ、今年10月の二度目のヴァチカン音楽祭招聘の栄誉を称え、平戸名誉大使としての今後益々のご活躍と、再びお目にかかれる日が来ることを市民の皆さまとともに願うものです。

また、コンサート運営にご尽力いただいた多くのボランティア、とりわけJR九州高速船「ビートル」の臨時就航受入れの際も含め、ご協力いただいた高校生諸君の働きは、平戸の価値を将来にわたって守り続け支えていくという意思の表れであり若い力を存分に発揮して頂いたことは頼もしく、改めて感謝申し上げます。

さらに特筆すべきは「ふるさと納税」の成果であります。

去る8月1日にTBSテレビの全国放送で紹介されたことをきっかけに、寄附

総額がその後一ヶ月足らずで 1 億円が増加され、今年度に入ってから既に予想をはるかに超える 2 億円を突破することができたことは、驚きと賞賛に値する快挙であります。

貴重な税財源の確保は当然のこととして、結果的に平戸市の名前が全国に発信され、また地域の特産品が全国各地に送り届けられることによる平戸ファンの増大は、生産者の皆様をはじめ関係者各位に「やれば出来る」の自信を持って頂いたことは大きな収穫であり、今後の戦略を立てる上にも重要な位置づけであるとともに、政府においても事業拡大を支援してくださるなどさらなる期待が寄せられます。

ただし絶好調な時こそ「勝って兜の緒を締めよ」の諺の通り、慎重かつ丁寧な対応とミスを犯さない綿密な連携と取組が不可欠です。関係職員各位はそれぞれの職場環境や自らの体調を整えながら全力を傾注していただきたいと思ます。

さていよいよ本日から 9 月市議会が開催されます。

今回は 7 月 31 日に「市長と議員による政策懇談会」を前もって開催し、深刻な行政課題となっている人口減少について現状認識を共有し、これまでの行政施策に加え、市民の意識改革や更なる雇用拡大も含めた民間事業者の取組など幅広い施策展開が不可欠となっていることを踏まえ、突っ込んだ議論が深まることが予想されます。

平戸市総合計画では残り 3 年間の重点主要施策について、「雇用の促進」「産業の振興」「子育て支援」「定住・移住」の 4 つの柱を強化し大胆かつ積極的に進めていきたいと思ます。

そのためには行政側からのアプローチにとどまらず民間事業者や地域の方々との協議の場を形成し、人口減少抑制対策や産業振興ビジョンづくりなどこれまでも増した総合的かつ包括的な戦略が不可欠となってまいります。関係する部局の担当者として、また平戸市に生活する一市民としての目線で大いなる関心をもって思い切った提案など幅広く寄せていただくことが大切だと思ます。

そして政府においても「地方創生」をスローガンに来年度予算の編成作業が始まります。本市のどのような施策が国の方向性にフィットするか、アンテナを張り巡らせ情報収集と併せて事業推進の戦略を築いていただきたいと思ます。

また今議会最終日には、「平戸市 CO2 排出ゼロ都市宣言」を承認していただくこととなっています。これはこれまで市内各地において進めてきた風力発電施設や太陽光発電施設などの画期的な取組が評価され県内二番目の「次世代エネルギーパーク」の認定を受けたことに加え、今後同様の施設が市内他地区で増設されること、また異常気象など地球温暖化などが危機感をもって改めて国民の注目になっていることを踏まえ、低炭素社会の実現に向け更なる環境政策の

推進とこれを具現化した環境ビジネスや新エネルギー産業の支援をすることが狙いです。

こうした取組は、自然の恩恵を未来につながるエネルギーとして施策展開に取り組む平戸市のイメージが広く国内外に評価され、10月後半に予定されている「再生可能エネルギー推進平戸大会」をより意義あるものに高めていく千載一遇のチャンスと捉えています。省エネや節電など身近な心がけも含めてそれぞれの立場においてこの都市宣言の趣旨に基づく努力をお願いします。

ところで先日、東京都心部で再開発事業に大きな実績をおさめておられる東京ミッドタウンマネジメント株式会社の中村康浩社長とお話する機会がありました。今や東京のランドマークとなっている六本木ヒルズなどを手がけた実業家だけに興味深いお話をお聞きすることができましたが、その中で組織マネジメントの話になりました。

それは、経営のトップリーダーと現場を担当する前衛部隊との間に「粘土層」に例えられるような管理職がいる組織は意思の疎通が円滑に行なわれず、時間と労力の浪費により組織そのものが淘汰されるという内容でした。つまり「粘土層」は分厚い上に流動性がなく、水などを浸透させないことからトップの指示が現場に確実に届きにくいことや現場情報がトップに伝わりにくいことなど、組織として機能不全になるという警告です。

この話は、いかに中間管理職の役割が重要であるかということを実に物語っているものと思います。

「風通しがよく、自由闊達な議論を踏まえた上で、構成員が円滑に動ける」組織がいつの時代にも求められ、そして生き残っていくのです。

私自身いくつもの政策判断に迫られる立場にありますが、それは現場職員の直面する肌感覚や管理職員の幅広い情報収集を含めた経験知に基づく総合的な分析力などが頼りです。決して水はけの悪い「粘土層」であってはなりません。この機会にわが国のリーディングカンパニーの社長の言葉を改めて再認識し、皆さんとともに深く噛み締めたいと思います。

いよいよ『平戸藩の秋めぐり』もスタートします。様々な分野において市民と協働し、文字通り恵みの秋となりますようともに頑張ってください。

職員皆様のご努力に期待します。

平成 26.年 9 月 1 日

平戸市長 黒田成彦